

## フランスでの生活

さて、今は、フランスの南西部、スペインに程近いトゥールーズという街の、トゥールーズキャピトル国立管弦楽団に勤めています。



本拠地であるホールの外壁には…！



同僚との室内楽演奏会后

フランスでの生活をはじめて早 10 年になります。2013 年、東京の大学を卒業後、パリの大学院へ留学しました。パリに着いてすぐ、ヴァイオリンの個人レッスンを週に 1 度受けながら、家探しとフランス語学校探しに明け暮れる日々が始まりましたが、不動産屋では「フランスの銀行口座が必要」、銀行に行くと「住所が必要」、携帯会社の手続きにも「住所が必要」と言われ途方に暮れたのを思い出します。それでも、在仏何十年、という知り合いの方に助けてもらいながら、なんとか不動産屋さんを説得してアパートを借りられることになりました。そこは、パリ 15 区のターミナル駅、モンパルナスからすぐのところであり、ちょっと天井が斜めになっている屋根裏部屋で、小さな丸い窓からエッフェル塔が見えるパリのアパルトマンという言葉にぴったりの、映画に出てきそうなお部屋でした。家具を揃えるのにも一苦労、ベッドを組み立てるのにも一苦労、でしたので、最初の数日は段ボールを敷いて寝ていました。それでも、パリでの生活はとても刺激的で、街を歩くだけでも気持ちがよかったですし、学校とヴァイオリンのレッスンとで充実した毎日を送っていました。

その後しばらくして、落ち着いた頃にホームシックが襲ってきましたが、幸いにも年に数回帰ることができていたので、日本での演奏のお仕事とパリでの学生生活との間で自分のなかでうまくバランスを見つけていた気がします。

この国へ来て、今まで、いろいろなトラブルにも巻き込まれましたが、フランスが、交渉次第で多くの NO が YES に変えられる国だということに気がついたのは、何年も経ってからのことでした。何も言わなければ、当たり前ですが何も変わりません。こちらの国では、何かあれば人々は必ず意思表示をし、行動を起こします。そして、その結果、何かしらが変わります。もちろん一概に全てとは言えませんが、自分がちっぽけな人間だと思っても、行動に出ることがこんなに大切なことだと気がつけたのは、この国に来てよかったと思えることです。